

資料3 「血しおしたたる 主のみかしら O Haupt voll Blut und Wunden」 翻訳歌詞の比較

ドイツ語歌詞(抜粋)

1.
O Haupt voll Blut und Wunden,
Voll Schmerz und voller Hohn,
O Haupt, zum Spott gebunden
Mit einer Dornenkron',
O Haupt, sonst schön gezieret
Mit höchster Ehr' und Zier,
Jetzt aber höchst schimpfiet:
Gegrüßet sei'st du mir!
2.
Du edles Angesichte,
Davor sonst schrickt und scheut
Das große Weltgewichte,
Wie bist du so bespeit!
Wie bist du so erbleicht!
Wer hat dein Augenlicht,
Dem sonst kein Licht nicht gleicht,
So schändlich zugericht'?
5.
Erkenne mich, mein Hüter,
Mein Hirte, nimm mich an!
Von dir, Quell aller Güter,
Ist mir viel Gut's getan.
Dein Mund hat mich gelabet
Mit Milch und süßer Kost;
Dein Geist hat mich begabet
Mit mancher Himmelslust.

CD添付解説書 杉山 好 訳

第63曲 コラール 【第1, 2節】

おお、血と傷にまみれし御首(みかしら)
痛みと辱しめにゆがみぬ。
おお、嘲りのため
茨の冠を結われし御首(みかしら)！
おお、つねならば美わしく飾られ
こよなき誉れと飾りを頂く御首(みかしら),
いまは嘲弄の極みを受く,
おん身ぞ、われには慕わしけれ！

おん身、気高き御顔よ、
つねならばおん身の前に
世の大いなる権威も恐れおののくものを、
いまおん身は**いかに**唾せられし、
いまおん身は**いかに**色失せたまいし！
たれの打ちたるか、その御まなこ、
いかなる光もならびえぬ光の源を、
かくも無残に閉じ塞(ふさ)ぎしは？

第21曲 コラール 【第5節】

われを知りたまえ、わが守りて、
わが牧者よ、われを受入れたまえ！
すべての善きものの源よ、汝によりて
われは多くの善きものをこうむりたり。
汝の口より出づる乳の甘き滴りはわれをうるおし、
汝の霊より溢るる賜ものは
天の愉悦もてわれを満たしぬ。

LP添付解説書 皆川達夫 訳

第63曲 コラール 【第1, 2節】

おお、こうべは血にまみれ、傷をおい
苦しみと悔りをうく、
おお、主のみかしらは
嘲りのいばらの冠をいただく。
かつて栄光と誉れにかざられし
主のみかしら、
今はいたくののしられたり。
われはかしこみ、きみをあおぐ。

かつて全宇宙を
おそれしめたる
汝がけだかきみ面、
つばきかけられ、けがされたり。
かつて清くかがやきし
主の眼光を、
かくも青ざめ
恥にけがせし者は誰ぞ。

第21曲 コラール 【第5節】

われをみとめたまえ、わが守り人、
わが牧者よ、われをいただきあげたまえ。
すべての善のみなもとなる汝より、
あまたの幸(さち)ながれ出でぬ。
汝がみ言葉は、うましき糧となりて
われをはぐくみ
汝がみ心は、あまたの天国の幸を
われにもたらしぬ。

6.

Ich will hier bei dir stehen,
Verachte mich doch nicht!
Von dir will ich nicht gehen,
Wenn dir dein Herze bricht;
Wenn dein Haupt wird erblassen
Im letzten Todesstoß,
Alsdann will ich dich fassen
In meinen Arm und Schoß.

9.

Wenn ich einmal soll scheiden,
So scheide nicht von mir;
Wenn ich den Tod soll leiden,
So tritt du dann herfür;
Wenn mir am allerbängsten
Wird um das Herze sein,
So reiß mich aus den Ängsten
Kraft deiner Angst und Pein!

第23曲 コラール 【第6節】

われはここのみもとに留まらん。
われを退けたもうなかれ！
みもとよりわれは去らじ、
汝の心傷つき破るとき。
汝の胸、とどめの一突きに青ざめ果てなば、
われはこの腕をば広げて、
み体をわがふところに抱きまつらん。

第72曲 コラール 【第9節】

いつの日かわれ去り逝くとき、
われをば離れ去りたもうな。
われ死に面するとき、
汝 立ち出でてわが盾となりたまえ！
恐怖と不安の闇
わが心を囲み閉ざさんとするとき、
われをこの怖れの闇より引き出したまえ！
汝の嘗(な)めつくせし不安と責苦のゆえもて。

第23曲 コラール 【第6節】

われ、汝がみもとにとどまらん、
われを軽んじた。もうな、
たとえ汝が胸くだくとも、
われ、汝がみもとより離れざらん。
汝がみ胸に血失する時、
汝が最後の時も、
われ、とどまりて、
わが腕に汝をいだかん。

第72曲 コラール 【第9節】

いつの日か、われ死なん時、
主よ、われよりはなれたもうな。
われ死に苦しまん時、
われにみ姿をみせたまえ。
わが心にいたくうれう時、
汝のうけし苦悩により、
われをば怖れより
救いだしたまえ。